三鷹市立第四小学校　令和8年度 【体育】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○スモールステップで様々な活動を取り入れることで、「やってみたい！」「楽しそう！」と意欲的に運動する児童が多く見られる。 【課題】 ○体験差や能力差が大きい。	【現状】 ○意欲的に楽しみながら体を動かし、きまりを守って運動することができる。 ○友達と一緒に、仲良く活動している。 【課題】 ○体験差や体幹やボディイメージの弱さなど、個人差が大きい。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○スモールステップの学習課題や選択制の課題を提示することで、児童が自分の力に合わせて楽しく自分から運動に取り組めるようにする。 ○話し合いや振り返りの時間を設け、気付きを言語化したり、互いの考えを伝え合ったり、そのよさを認め合ったりする時間を設ける。 ○手本を見せたり、アドバイスタイムを設けたりすることで、教え合い・学び合いの力を高める。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎学習カードやタブレットを効果的に活用して気付きや振り返りを言語化させ、次への意欲や技能の習得へとつなげる。
第2学年	【成果】 ○学年の先生や講師の先生とコミュニケーションをとりながら、学習を進めることができた。 ○適切な運動量の確保と水分補給のタイミングを考え、安心で安全な体育の授業づくりを行ってきた。 【課題】 ○体育学習カードを上手く活用できなかった。	【現状】 ○運動会の表現での学習などは積極的に取り組む児童が多かった。 ○自分の課題解決や目標達成に向けて必要なことを考え、工夫して取り組むことができている。 【課題】 ○ゲーム性のある運動遊びが少なく、児童が作戦を選んだり考えたりする時間、友達と話し合う時間を効果的に設けることができなかった。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○児童が自分の学習を振り返って次の学習につなげられるような時間を確保する。 ○ボールゲームや鬼遊びなどでは、全体で作戦を考えたりチームで作戦を選んだりする作戦タイムをとる。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎運動をする時間、体を楽しく動かす時間をたくさんとり、自分からすすんで運動に取り組もうとする児童を増やしていく。
第3学年	【成果】 ○学習カードの活用を通して、本時のねらいや内容を理解して授業に臨んでいる姿が多く見られるようになった。 ○児童の安全や体調に配慮して、授業を進めることができた。 【課題】 ○技能面の個人差や運動経験の有無に大きな差があり、個に応じた指導の時間を十分確保していく必要がある。 ○グループで話し合いながら練習計画を立てる時間を設けたり、互いの活動を評価したりする時間を設けることができなかった。	【成果】 ○運動に進んで取り組んだり、きまりを守って運動をすることができている。 ○できるようになりたい動きを身に付けるために、工夫して運動できている。 【課題】 ○意欲的に取り組めているが、技能の向上に課題がみられる。 ○勝敗をすぐに受け入れることが難しい児童がいる。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○場の工夫や運動補助具等の活用を通して、運動に苦手意識をもつ児童も得意な児童も技能の向上を目指す。 ○授業のねらいに応じてグループやチーム編成を工夫し、互いの考えを伝え合ったり、その良さを認め合ったりする時間を設ける。関係づくりを重視し、勝敗にこだわりすぎないようにする。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎タブレット端末のカメラ機能を活用し、自分の動きや友達の動きを客観的に分析して、技能の向上につなげたり、互いの良さを見付けられるようにする。
第4学年	【成果】 ○児童の課題を設定する時間を確保したことで、単元の学習への見通しがもてたり、課題の解決方法を考えたりできた。 ○チームやグループワークを意図的にどの単元でも入れたことで、考えを伝え合う時間や認め合う時間が取れた。 【課題】 ○器械運動で楽しく運動はしている様子は見られたが、技能の向上が効果的にできなかった。 ○振り返りを書かせる際にICT機器を活用したが、書いてある内容が浅くなった。	【現状】 ○運動に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ○運動のコツやポイントなどをつぶやく児童が多く、児童の発言から技能を高めることができた。 【課題】 ○意欲的だが、学習態度（整列・勝敗を受け入れる等）に差が見られる。 ○ある程度できたらそれで満足する傾向がある。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○授業の始めに学習の規則を改めて確認し、学習規律を整える。 ○児童同士で動きを見合う時間を設けたり、チームの人数を工夫して互いの良さを見つける時間を設け、どの児童も運動に意欲的に取り組めるようにする。 ○どの児童にとっても、適切な難易度の課題を示し、運動の楽しさを味わえるようにする。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎学習の流れをある程度一定にしたり、掲示したりする。互いに動きを見合ったり、良い動きを伝え合ったりする時間に自分の考えを述べたり、友達の発言を集中して聞いたりする。
第5学年	【成果】 ○ペアやグループで互いの運動を見合い、助言したり自分の動きに生かしたりすることができた。また、全体で練習方法を共有することで、児童自ら練習方法を選びながら取り組むことができた。 【課題】 自分の動きを振り返り、課題を捉えて改善を図ることに課題がある。	【現状】 ○やってみる→ペアやグループで見合うことで、技が上達したと実感する児童が増えた。 ○児童の実態や特性をもとにペアやチームを編成し、学び合いを促している。また、勝敗がある運動においては、客観的なデータをもとに実力の平均化を図り、どのチームも勝つ可能性があることを示すことで、意欲的に運動に取り組んだり練習方法を工夫したりする姿を促している。 【課題】 ○「運動能力」や「運動経験」の減少、「思考力、判断力、表現力」の低下が見られる。教科部会の研究などを参考に、指導改善を図っていく必要がある。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○運動のポイントや振り返りの視点を明確にし、児童が自分自身の課題を捉えられるようにする。 ○互いの運動への取り組み方や成果を相互評価し合う場を設定する。また、個々の力に応じて練習する方法を選択できるように活動を工夫する。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎学習カードやICT機器を活用した振り返りを通して、「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」を評価していく。 ◎掲示物（技能ポイント、対戦表、役割表など）や動画（ICT機器の活用）など、見て分かる教材を生かして指導する。
第6学年	【成果】 ○授業において、安全面を意識して活動することができる。 ○互いにアドバイスをしながら、よりよい動きを身に付けようとする児童が多い。 ○ゲーム領域に関してはルールを理解しスムーズに行うことができた。 【課題】 ○器械運動に対する苦手意識が高い児童が多い。	【現状】 ○器械運動「マット」の学習では、練習の場を工夫したり技のポイントを見付けたりしながら、意欲的に取り組むことができた。苦手な意識がある児童も粘り強く練習に取り組むことができた。 ○友達同士でアドバイスをし合って運動に取り組む姿勢が見られている。 【課題】 ○「運動能力」や「運動経験」の差が大きく、自分自身の課題に対し、どのように運動に取り組めばよいか分からず、粘り強く取り組めない子がいる。授業改善を図り、児童の主体的な学びを促す必要がある。	【習得と活用】【補充的・発展的な指導】 ○資料を提示し、児童が学習の見通しを立てたり自分の動きを振り返りやすくしたりする。 ○運動が苦手な児童に対して、教師が動きのポイントを指導したり、練習の場やルールを工夫したりして、どの児童でも意欲的に向上心をもって取り組むことができるようにする。 ○ペアやグループで互いの動きを見合ったり、アドバイスし合ったりする機会を計画的に設定する。 ○技能が高い児童については、発展的な課題を与え、意欲を高く保てるようにする。 【三鷹 「学び」のスタンダードの活用】 ◎問題解決学習の充実が図れるよう、発問の内容や授業の流れ、運動する場等を工夫することで、真剣に教材と向き合う機会や児童同士の対話を生みだし、より思考を深められるようにする。